

■ 平成26年度 長期助成 採択事業 一覧

長期助成:申請 19 件、採択 4 件

申請者名	合同会社アルシュ／庭劇団ペニノ
プロジェクト名	新たな「はこぶね」プロジェクト
実施予定	2014年4月～2017年3月
プロジェクト概要	タニノクロウ(演出家・劇作家)が主宰する庭劇団ペニノは、妄想と現実が浸食し合うような独創性の高い緻密な世界観を持った作品が特徴で、欧米を中心に海外からの注目を集めている。これまで活動拠点としていたアトリエの解体にともない、そこで培った方法論を基に回転する盆舞台「はこぶね」を劇団の新たなシンボルとして定着させ、自らの表現世界をさらに追及する。また、国内での新作公演に加え、欧米やアジアのフェスティバル・劇場からの招聘や新作委嘱、レパートリー化など、東京を代表するアーティスト・劇団として活躍の場を拡大していく。

申請者名	ストアハウス
プロジェクト名	ストアハウスコレクション
実施予定	2014年4月～2017年3月
プロジェクト概要	有限会社ストアハウスは台本作家、演出家の木村真悟を中心に1995年設立。上野ストアハウスを拠点に、フェスティバルの企画・制作、劇場付カンパニーの公演の企画・制作、劇場運営などを手掛ける。本企画は小劇場で活躍する海外の劇団と日本の気鋭の劇団の作品を2作同時に上演して、現代における演劇の在り方について考え方を共有し、2年目以降はワークショップなどを経て、最終的に共同制作公演を行うことを目標とする。各々の劇団が「一対一」で対話できる場を設ける試みでもある。

申請者名	カンパニーデラシネラ
プロジェクト名	カンパニーデラシネラ 白い劇場シリーズ(仮)
実施予定	2014年4月～2017年3月
プロジェクト概要	2008年に小野寺修二が立ち上げたカンパニーデラシネラはマイムをベースにダンサーや役者、音楽家が集まり身体表現に重きを置いた作品を発表し続けている。本件は、小野寺氏のこれまで蓄積した経験を活かし、自身の活動の原点回帰かつ新たなカンパニー活動の構築を目指す。1年目は小規模作品の創作と上演を通し、同じ身体言語を共有する新メンバーの強化を図り、2年目は小規模劇場でのロングラン上演を通し作品の強度を高め、3年目は海外公演を念頭にした新作の創作と上演、その後の都内公演を計画する。

申請者名	Happy Tent
プロジェクト名	トウキョウの記憶
実施予定	2014年4月～2016年3月
プロジェクト概要	若手映像作家に新作を依頼し、制作過程や完成後の展開をサポートすることで、ステップアップにとって鍵となるニーズに応える企画。リサーチ・撮影・制作を行い、完成の段階で英語字幕やプレスキットの制作、完成披露上映会を行う。作品はひとつの街/エリアをテーマとした10～15分程度の短編で、そのエリアのアートギャラリー等の関係者と連携することで、アーティストのリサーチや地域の人々との交流をサポートし、その街を深く見つめた作品制作を促す。シンポジウム・トークイベント、アーティストの過去作品の上映、ワークインプログレス発表会等も予定。